



## 小柳建設 株式会社

一般社団法人 新潟県建設業協会 会員

<https://n-oyanagi.com/>

企業名 小柳建設 株式会社 所在地 〒955-0047 新潟県三条市東三条1丁目21番5号

代表者 代表取締役社長 小柳 卓蔵 資本金 1億円

沿革等 小柳建設は1945年に創業以来、戦後まもない日本国土と地域社会の復興と成長に寄与してまいりました。災害から人々を守るため、そして環境汚染が進む世の中を美しくしていくという使命を持っています。働き方も大きく変化し、さらには感染症の拡大によって、人々の価値観も大きく変化しました。効果的にテクノロジーを利用することと共に、楽しんで働きながら、今まで通り“人の心”を大切にしながら、お客様と地域社会の課題を解決できる、人のため世のために働けるチーム作りを持続していきたいと考えています。

### アメーバ経営とDXによる働き方改革

弊社は、かねてより働き方の改善に取り組んできました。

#### ① アメーバ経営・人事制度の浸透

各チームが採算に責任を持ち、管理することによる生産性の向上、人財育成のためのDX推進により、業務改善平準化・標準化を図り、効率化が進みました。

#### ② 受注・施工体制の見直し

現場に必要な人員を適切に配置できるよう、受注・施工体制を見直しました。属人的な現場運営を解消し、役職や役割に関係なく休むことができる環境を実現しました。

#### ③ 健康経営に関する取り組みの推進

リフレッシュ休暇制度やワクチン接種後の特別休暇制度を創出し、より休みやすい風土の醸成を行っています。また、従業員の精神面をフォローするために第三者機関によるハラスメント相談窓口の開設、プライベートの悩みを顧問弁護士に相談できるサービスを開始いたしました。さらには「心の健康診断」として従業員のメンタルヘルスやカウンセリング、コーチングをWEB上でプロ



くるみん通知書交付式時の様子



育休取得中の男性社員



から受けることができるサービスも開始しております。

このような取り組みの結果、2021年11月、新潟労働局よりベストプラクティス企業に選定をいただきました。現在では全社の月平均残業時間は、2時間(2021年4月～2022年3月)まで改善されました。そのことを評価いただき、くるみん子育てサポート企業はじめ、ハッピーパートナー

企業子育て応援プラス、イクメン応援プラス、女性の活躍推進企業「えるぼし認定」三つ星の認定をいただきました。また、2021年6月には株式会社ワーク・ライフバランス社の男性育休100%宣言へ賛同し、100%を継続中です。過去1年間での男性育児休業取得期間は、最低でも2週間、最長で3週間。3週間の育児休業を取得した社員の中には、現場代理人もいました。

## 女性の活躍推進企業「えるぼし認定」三つ星を獲得

生産性向上のためのDX推進などによる残業時間の削減や有給取得率のアップなどが認められ、女性の活躍推進に関する取り組みの実施状況が優良な企業を厚生労働省が認定する制度「えるぼし認定」の最高位である三つ星を獲得しました。新潟県内の建設会社では初の認定となります。加えて2022年6月からは、従業員のメンタルケアを目的とした「心の健康診断」を実施。女性の活躍のみならず、従業員全員が働きやすさを感じられる環境づくりを、ハード・ソフトの両面から実現していきます。建設業界は従来から男性が多い業種で『3K(きつい・汚い・危険)』の印象が未だ根強く残っています。その為、女性には向かない仕事と捉えられてしまいがちです。

しかし当社では、社員を部署・部門よりさらに細かいチームに分け、全員で経営する意識を持つ『アメーバ経営』の導入や、生産性向上を目指し



たDXの推進により、残業時間の大幅な削減に成功。育児休業制度の整備や有給取得の促進などを行い、育児と仕事を両立しながら女性がいきいきと活躍できる職場環境を構築してきました。性別問わずこれからの建設業界を担う新たな人材が日々誕生しています。

## インキュベーション施設(コワーキングスペース)から始まる地域活性化

当社加茂オフィスのインキュベーション施設(コワーキングスペース)は、地域のチャレンジャーを後押しする場として活用されることを目的に開設されました。地元の加茂農林高校の生徒は、同校で収穫した農産物を周辺地域において行商する活動を行っておりました。この活動を踏まえ当社は、インキュベーション施設(コワーキン



第一回目のディスカッション(2021年6月1日)



グスペース)の開設を機に、当施設を収穫物の売り場として活用いただくことを考えていました。そんな中、当施設で開設当初よりチャレンジをいただいているparadise\*cafe様とイラストレーターのnezi様が本企画に参加。高校生が考案したメニューをコラボメニューとして商品化する、という本格的な取り組みへと発展しました。

加茂農林高校の参加生徒は、同校近くで流れる河川で見られるゲンジボタルの保護活動や、越後姫の栽培に関しての研究を行っています。そんな生徒の皆さんが、ホタルやイチゴを題材に、「こんなメニューがあったら良いな」といったイメージを複数考案。そのうちparadise\*cafe様より厳選された3品の試食会が各参加者合同で実施されました。nezi様考案の商品パッケージは同日、試食を行った生徒の感想を踏まえてデザインされました。

#### 【新商品の販売について】

《商品1》ゼリー「ひかる」

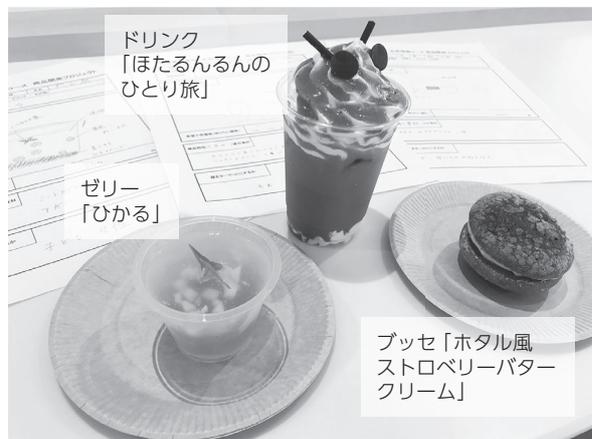
《商品2》ドリンク「ほたるんるんのひとり旅」

《商品3》ブッセ「ホタル風ストロベリーバタークリーム」

商品化が決定した3品は、いずれもホタルをモチーフとしており、素材は同校の生徒が育てたイチゴや卵が使用されています。商品名は、同校生徒の若く柔軟性のある発想力で考案されました。生徒が研究するホタルやイチゴの活動を商品を通して知ってもらいたい、という思いが表現された商品名となりました。



試食会時の様子(2021年6月29日)



商品化が決定した3品

また、販売当日、コラボメニュー以外にも同校生徒が育てた農産物も販売されました。

現在もインキュベーション施設(コワーキングスペース)では地元のカフェやパン屋さんが新商品を開発し、販売に活用されています。

## DXの推進による地域活性化、地方創生に向けて

弊社加茂オフィスは、2021年1月竣工、3月より運用を開始したばかりです。弊社コーポレートメッセージである「変化を楽しもう。」がコンセプト。DX(デジタルトランスフォーメーション)を意識したオフィスです。また、執務フロアの各スペースは様々な用途に合わせた仕様となっており、各人の業務に合わせ働く場所を選択すること

で業務効率の最大化を図ります。さらに、デジタルサイネージを活用した各チームの指標(データ)を「見える化」することでどの社員も自分の成長を感じることができます。さらに、2021年10月14日(木)には、Microsoft Base Niigata-Kamoとしてスタートし、働き方の提案や、地方部におけるオフィスの在り方とDXの推進につ



いて支援していくことを目指しています。

2022年3月29日には地域活性化・地域創生に関する連携協定式を弊社加茂オフィス コワーキングスペースにて実施いたしました。式には、日本マイクロソフト社 執行役員 常務 三上智子様、三条市の滝沢市長様、加茂市長の藤田市長様、弊社 代表取締役CEO小柳卓蔵が参列。連携協定は、弊社拠点を構える新潟県三条市様・加茂市様と、日本マイクロソフト社様と、小柳建設でそれぞれ締結いたしました。

今後より一層相互が協力し、地域の企業や教育機関が最新技術に触れ・学ぶきっかけを創出し続けることで、地域全体におけるDX推進を進めていきます。

また、2022年7月20日、日本マイクロソフト株式会社(以下、日本マイクロソフト)主催の「マイクロソフト ジャパン パートナー オブ ザ イヤー 2022」において「Mixed Reality アワード」を受賞いたしました。日本マイクロソフトと2016年より連携して開発しているHolostructionにより建設業界の課題解決に取り組み、国土交通省による実証実験プロジェクトで3年連続採択されたこと、さらには日本マイクロソフトのコンサルティングサービスと連携した機能拡張、Microsoft Base Niigata-Kamoによりショーケースとして活動展開を開始したことを評価いただきました。



## 竣工検査でHolostructionを活用 DX(デジタルトランスフォーメーション)で建設業の働き方改革

国土交通省では、インフラ分野のDXを推進しています。さらに、新型コロナウイルス感染症対策を契機とした非接触・リモート型の働き方への転換と抜本的な生産性や安全性向上を図る働き方を推進しています。2021年3月、その活動を具現化するために、Holostruction、Microsoft Teams(以下、チームス)、各種ウェアラブルサービスを用いて、発注者側事務所2か所(検査官、監督官)・受注者側現場事務所・施工現場2か

所をつなぎ、竣工検査をすべて遠隔で実施しました。

竣工検査では、現在行われている遠隔臨場の試行に加えて、3次元CIMデータを活用して遠隔地から仮想現実をみることができ、Holostructionを組み合わせて実施することで、より理解度を高めるコミュニケーションを実現しました。(次頁、遠隔検査概要図参照)



## 本工事の概要

[工事名称] 阿賀野バイパス15工区改良その2  
工事

[発注者] 国土交通省北陸地方整備局  
新潟国道事務所

[工期] 2020/1～2021/3

[施工場所] 新潟県阿賀野市小境地先

[施工概要] 路体(築堤)盛土: 2,500㎡、  
自走式土質改良: 9,500㎡、プレキャ  
ストボックスカルバート工: 52m、  
排水構造物加工: 一式、  
仮設工: 一式

※本工事は国土交通省の「令和2年度 建設現場の生産性を飛躍的に向上するための革新的技術の導入・活用に関するプロジェクト」に採択をされており、Holostructionの試行フィールドとなっています。

## Holostruction

HolostructionはMR(複合現実)技術を用い、建造物の3次元モデルや日常活用しているデジタルデータ(写真、書類)を現実の空間に投影し、その中を歩き回りながら、様々な位置・角度・縮尺において自由自在に複数人と同時に協議することができるソリューションです。遠隔地とのリモートコミュニケーション機能も有しており、離れた場所からも非対面で仮想会議に参加することもできるため、リモート会議や遠隔臨場などにご活用いただけます。2017年4月から日本マイクロソフトと協業プロジェクトで開発を行い、2019年12月に製品としてリリース。2020年12月には、HoloLens 2・スマートフォン(Android)に対応したバージョン

をリリース、なお、Holostructionについては代表的なタイムスライダー機能、リモートコミュニケーション機能など主要機能について2020年12月23日に特許を取得しました。

